

ものづくり補助金活用
ココがポイント!

point!



同じ時間で1.7倍の飼料を生産
さらにコストも削減



横型パドル式攪拌機になったことで1日の製造量が1.7倍に。結果、生産コストを30~40%削減できました。

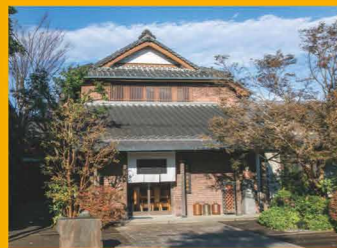
hope - 我が社のホープ -

新たな機械になってから飼料の製造時間が短くなっただけでなく、作業の負担も軽減しました。生産効率が上がり、これまでより多くの注文に対応できるようになったことで、今まで以上に地域の畜産へ貢献できることになるわけですから、仕事の励みになりますよ。



森下 正明 (52)
もりした まさあき

動画でも check!



01
酒類製造・販売
株式会社 黒木本店

〒884-0002
宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋776
TEL.0983-23-0104



焼酎を製造する際に発生する焼酎粕には多くの栄養分が含まれています。



今後の展望

宮崎の豊かな焼酎文化を全国の、さらには海外のたくさんの方々に知ってもらい、楽しんでもらえるよう、さらなる挑戦を続けていきたいですね。

従来の縦型スクリー式攪拌機に比べて半分の時間で飼料を製造できるようになりました。



同社の飼料を10年以上にわたって使っている『あじ豚』の山道義孝社長は、「この飼料を使い始めて赤身に甘みが増した」とその効果を実感しています。

以 来、1日約600kgの飼料を生産してきた同社は、増産を目的に、より処理能力の高い「横型パドル式攪拌機」を導入しました。

「機械を更新したことで、1日製造量が1トンに増え、生産コストを30~40%削減できました。肥料の質も向上したので、これまで以上に高品質な肥料を安価で提供できるようになっています。現在は飼料と肥料の製造割合が半々ですが、今後は飼料の割合を年に30%ずつ増やしていく計画です」



株式会社 黒木本店

自然循環型の
焼酎づくりで
宮崎に貢献

明治18年の創業以来、焼酎づくり一筋の同社は、焼酎粕を肥料や飼料として再生させるなど、環境を意識した取り組みを行ってきました。さらに宮崎の畜産に貢献するために、飼料の製造設備を一新しました。

〈代表取締役〉
黒木 信作
くろき しんさく

ものづくりへの想い

焼酎づくりを通して“人を結ぶ”、“心をほぐく”というのが私たちの理念です。私たちが作る焼酎によって社会がより豊かになるよう、これからも貢献していきます。



焼酎粕を使った高栄養飼料の
製造量を増産することで
宮崎の畜産をさらに盛り上げる

芋、米、麦。上質な焼酎をつくるために、原料の栽培から収穫までを自らの手で行う同社は、かねてから環境への配慮を行った事業を展開してきました。

「当社は100年以上にわたって、この土地で、この土地の材料を使って、この土地を表現する思いで焼酎をつくり続けています。ですから、この土地の環境が豊かであることがとても重要であり、そのために私たちにできることが、焼酎をつくる際に発生する廃液(焼酎粕)を使った肥料の製造だったんです」

そうして自社農園で使用する肥料づくりを始めた同社でしたが、畜産王国である宮崎県に貢献するために、飼料の製造にも力を入れるようになりました。

「自然の恵みを循環させることが狙いですが、宮崎を代表する食材である牛・豚・鶏、そして焼酎が連携することで、宮崎の食文化をより豊かなものにするという思いもあります」

ものづくり補助金活用
ココがポイント!



一貫生産を行えるようになり
輸送費が不要に

輸送費 ← 輸送費
0円/月 6万円/月

全自動延反機などの裁断設備を導入したことで、裁断加工品の輸送が不要に。輸送コストの削減と納期短縮を実現しました。

hope - 我が社のホープ -

大学は県外だったのですが、地元で仕事がしたくてこの会社に入りました。まだ3年目なのですが、世界レベルの仕事をしていることに誇りを感じています。現在は裁断を担当しているのですが、製品の基礎となるところなので日々、緊張感を持って作業に取り組んでいます。



大出水 勇樹 (26)
おおいでみず ゆうき

動画でも check!



02
アパレル製造
有限会社 南海服装

〒886-0003
宮崎県小林市堤2748-4
TEL.0984-24-5575



反物から生地を自動で引き出して所定の長さにカットする全自動延反機。



今後の展望

工場で作った製品を直接消費者へ届けるというビジネスモデルを検討しています。地方にある小さな工場でもこれだけできるんだということを、こだわったものづくりを続けて見せていきたいです。

新たに導入した自動裁断機。図面通り正確に、しかもスピーディーに生地を裁断していきます。



機械だけでなく、熟練の技を持った人がいるからこそ高品質の製品を製造できます。

「たな機械によって延反速度と精度が向上したことでお客さんに、より早く製品を届けられるようになりました。」
国内には小さいながらも強いこだわりを持ったブランドがたくさんあります。そういったお客さんたちと末永くお付き合いいただけるよう、品質の向上に集中し、さらに高品質な製品を製造していきたいですね」
2019年春には、自動裁断機を導入し、さらに生産性と品質を高めた同社。数少ないメイドインジャパンの誇りを持って、ものづくりに取り組んでいます。



有限会社 南海服装

無駄をなくして
世界レベルの品質を
さらに高みへ

2013年に誘致企業として小林に工場を新設した同社。当初は本社のある広島工場で裁断された生地を小林工場に輸送して縫製していましたが、輸送コストの削減等を目的に小林工場で一貫生産を行うようになりました。

〈代表取締役〉
花本 大介
はなもと だいすけ

ものづくりへの想い

機械化を進めてはいるものの、人にしかできない作業がたくさんありますし、機械を使うのも人です。ですからやはり人が大切ですし、技術が欠かせないんですよ。



裁断設備一式を導入し
一貫生産体制を確立。

課題だった工場間輸送をなくす。

1 972年に広島で創業した同社。その高い技術力を武器に、大手デパートやブランドなどから委託を受け、主にパンツ・スラックスを専門に製作しています。そんな同社は3年前に本社を構える広島の工場を閉鎖して、小林工場に製造を集約しました。ある課題を抱えていたからです。
「かつては広島の本社工場で裁断加工した生地を、小林工場に運んで縫製していたんです。けれど輸送に費用も時間もかかりますし、積み忘れなどで生産がストップしてしまうこともありました」

それらの課題を解決するために生地の裁断から縫製までを小林工場で行うことに決定した同社。そのために欠かせない、全自動延反機などの裁断設備一式を導入しました。
「機械を導入し、一貫生産体制が整ったことで、輸送費、生地の梱包作業に掛かる時間、輸送時間、輸送時のトラブルのすべてがなくなりました。また、新

株式会社 MFE HIMUKA

40%程度の稼働率だった機械が 新たな装置の導入で 日夜フル稼働に

設計力と技術力を武器に産業用機械を製作する同社が課題としていたのが、機械の部品を加工するレーザー加工機の稼働率。あらたにパレットチェンジャーを導入することで、40%以上の改善を達成しました。

〈代表取締役〉
島原 俊英
しまばら としひで



ものづくりへの想い

ものづくりはあらゆる分野に関わっています。そういう意味ではものすごい可能性があり、夢もある。ぜひ若い人たちと一緒に宮崎をものづくりで盛り上げていきたいですね。



自動化された機械と確かな技術力が同社の強みです。



パレットチェンジャーからレーザー加工機に供給された鉄板。



今後の展望

これからは、さらに地場の産業を盛り上げて、宮崎を元気にするためにも、「こんなものがあつたらいいな」という機械を、自分たちで企画製作していきたいですね。

加工を終えた板は自動で排出。同時に次の板が加工機に供給されます。



ものづくり補助金活用 ココがポイント!

point!



切断加工機の稼働率が 大幅に向上



10段式パレットチェンジャーと、同時に導入した自動プログラミング装置によって稼働率が40%以上アップしました。

hope - 我が社のホープ -

パレットチェンジャーのおかげで段取りにかかる時間が少なくなり、夜間の無人運転も可能になりました。その分、次工程の製造部門に早く部品を渡せるようになったので、会社全体の作業効率が上がりました。これからも地場産業の力になれる機械を作っていきます。



清水 良太 (40)
しみず りょうた

動画でも
check!!



03
生産用機械器具製造
株式会社 MFE HIMUKA

〒883-0062
宮崎県日向市大字日知屋17148番地9
TEL.0982-52-7215

WELCOME
MFE HIMUKA

生産性と収益性の向上で 生まれた余力を さらに地場産業に生かす

1 969年に日向中島鉄工所として創業し、2019年、令和という新たな時代の幕開きとともにMFE HIMUKAと社名を変更した同社。宮崎の食・環境・エネルギー分野に貢献したいと、地場産業を支える産業用機械を製造しています。

機械の部品は、レーザー加工機を使って鉄板から切り出すのですが、その稼働率に課題を抱えていました。

「鉄板をセットするパレットが2枚しかないのに、1枚が切断されている間にできることといえば、もう1枚のパレットに鉄板をセットすることだけで、作業効率が非常に悪かったんです。稼働率だと30〜40%程度しかありませんでした」

ど うすればレーザー加工機が止まっている時間を減らせるのか。その課題を解決したのが、新たに導入したパレットチェンジャーです。

「パレットチェンジャーには10段のパレットがあって、パレットに板をセッティングしておけば、自動でレーザー加工機に供給されるんです。同タイミングで導入した自動プログラミングと併せて稼働させることで、稼働率が飛躍的にアップしました」

その結果、生産コストが削減され、納期短縮も実現。今後に向けた生産体制が整いました。現在は、農業を盛り上げるためのあらたな機械を開発するなど、宮崎の地場産業の発展にますます力を注いでいます。

ものづくり補助金活用
ココがポイント!

point!



操作性が向上し
生産効率にも好影響

生産効率
20%
アップ

旧来の機械に比べて操作性が高くなった
うえ、冷却水の処理作業などがなくなり、
段取りに費やす時間が大幅に減少。その
結果、生産効率もアップしました。

hope - 我が社のホープ -

この機械が入ったことで生産性が上がった
だけでなく、製品のクオリティも高まりました。
直接お客さまの声を聞く機会はない
のですが、営業担当を通じてお客さま
の喜ばれている声を聞くと、さらにいい
ものをつくらうとモチベーションが上がりますね。



柏木 健伸 (38)
かしわぎ たけのぶ

動画でも
check!!



04
ゴム製品製造
株式会社 豊中ホット研究所

〒889-1702
宮崎県宮崎市田野町乙1742-46
TEL.0985-86-1588



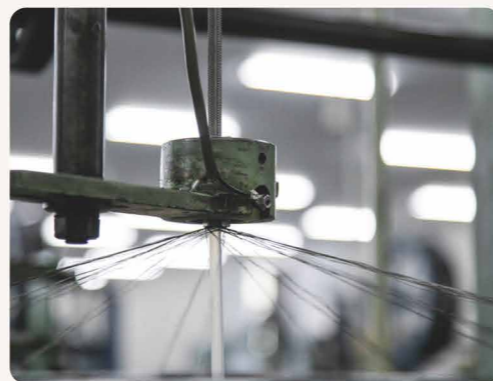
導入した成型機では押出成型の際にオイルを必要と
しないため、環境面でも良い影響がありました。



今後の展望

今回の成果によって当社の可能性はぐんと高まり
ました。今後も、国内外、ジャンルを問わないさま
ざまな業界のお客さまに、最高品質の製品を提供
し続けられる企業でありたいですね。

成型されたインナー
チューブに繊維が編組
されていきます。



同社の製品はすべてがオーダー
メイド。顧客のニーズに細かく
対応しています。

この機械によって、これまでに
ない圧力に耐えられるだけでな
く、真円性にも優れたインナー
チューブを製造できるようにな
りました。
「新しい成型機によって、需要
が高まっている大口径のホース
も製造できるようになりました。
大口径の超高压ナイロンホース
は、自動車業界以外にも造船、
板金、住宅などの塗装に関する
業界への販売拡大が期待できる
ので、これからの展開には大い
に期待しています」

株式会社 豊中ホット研究所

環境面に配慮した
水性塗料の使用ニーズに
超高压ナイロンホースで応える

1967年の創業以来、半世紀にわたって工業用特殊ホースの
設計・製造を行う同社。顧客の要望に応えるため、最新の
ナイロンチューブ押出成型機を導入し、大口径の超高压
ナイロンホースの製品化に成功しました。



〈製造1課 課長〉
山根 忍
やまね しのぶ



ものづくりへの想い

お客さまのご要望に応えられる製品をつ
くって、評価をいただいたときはやはり
うれしいですね。知識を得られて、手作業
の楽しさも経験できる。ものづくりって本当
に面白いですよ。



超高压インナーチューブを成型できる
ナイロンチューブ押出成型機を導入し
顧客の細かなニーズに応える

顧客

客の細かなニーズに応じ
て、自動車の塗装に使わ
れるペイントホースなど、工業
用特殊ホースの製造を行う同社。
数ある製品の一つ、超高压ナイ
ロンホースは、ナイロン製のイ
ンナーチューブの外側を繊維や
ワイヤーで編組することで超高
耐圧を実現しているのですが、
インナーチューブの押出成型技
術と編組技術の両方を持ち合わ
せているのが同社の強みです。

「自動車メーカーでは環境負荷
削減のため、有機溶剤を使わな
い水性塗料の利用を進めていま
す。水性塗料は粘性が高いので、
ホース内をスムーズに移送させ
るには、これまで以上に高い圧
力をかける必要があります、その圧
力に耐えられるホースが要望さ
れるようになったんです」

ところが、同社の従来の設備
では、顧客のニーズに応えられ
るインナーチューブを成型する
ことができませんでした。

そこで導入したのが、超高
圧にも耐えられるチュー
ブを成型可能な押出成型機です。

ものづくり補助金活用
ココがポイント!



泡立ちや質量の誤差もなく
スピードも段違い

充填スピードが **3倍に!**

新たに導入した充填機では、フィルムをセットして10秒程度で充填が完了。これは既存の機械の3倍のスピードです。さらに樽の保管スペースがほぼなくなったため、作業がしやすくなりました。

hope - 我が社のホープ -

お客さまの食卓にならぶしょうゆの製造に、一から携われるのがこの仕事の楽しいところ。「おいしい」のひとことを頂いたときの喜びは最高です。今後は伝統のしょうゆ・みそに加えて、消費者のニーズに応えられる新たな加工品にもチャレンジしていきたいですね。



西田 正樹 (45)
にしだ まさき

動画でも check!



05
食料品製造
ヤマエ食品工業 株式会社

〒885-0076
宮崎県都城市西町3646番地
TEL.0986-22-4611



これまで18リットル製品の8割に使われていた樽。今では新採用のフィルム式BIBが8割を占めています。



今後の展望

創業以来148年、地域の方々と一緒に会社を継続させていただいています。これからは、ここでつくった製品を国内外に広く発信し、地域と共に世界へと羽ばたいていきたいです。

充填機のノズルと容器入れ口が密着しているため、品質に影響を及ぼす泡立ちがありません。



複数人が手作業で行っていた段ボールの成型が、製函機によって一人で行えるようになりました。



製函機を導入します。

新 容器の効果はとてもの大きいものでした。コスト面でも機能面でも従来の容器を上回り、作業効率の向上にもつながったのです。
「樽を回収していた営業スタッフの手間がなくなり、他の業務に注力できるようになりました。新たな充填機と製函機によって作業時間も短縮できましたし、これを機に、さらなる販路拡大に力を入れていきたいですね」

ヤマエ食品工業 株式会社

伝統のしょうゆ・みそ
そしてこだわりの加工品を
都城から世界へ発信

明治4年に創業し、みそ・しょうゆとその加工品を製造・販売する同社。業務用加工品の容器を、回収・洗浄が必要な樽からフィルム型バッグインボックス容器に切り替えたことで、時間、コスト、労力のすべてを削減しました。

〈常務取締役〉
江夏 啓人
えなつ ひろと

ものづくりへの想い

世界中の人に手に取ってもらえる商品をつくることができますし、自分が思い描いた商品を形にできる。当社は148年間続けていますが、ものづくりは本当にすばらしい事業ですよ。



容器のワンウェイ化で
今後の経営の鍵を握る
業務用加工品の拡販へ

「食 生活の変化や人口減少などもある中、みそ・しょうゆの需要は右肩下がりの状況です。そんな中、しょうゆ・みそを使った加工品をいち早く手掛けてきました」
めんつゆやタレなど数ある加工品。中でも同社が注力しているのが業務用の加工品なのですが、その容器形態について課題を抱えていました。業務用のしょうゆやタレは、プラスチック製の18リットル樽や、段ボール箱の中にポリエチレン製のバッグが入った成型型バッグインボックス（以下、BIB）で納品されていたのですが、どちらの容器にも問題があったのです。

「18リットル樽は、回収する必要があるのが遠方に納品しにくいですし、回収後は洗浄の必要があります。成型型BIBは気体透過度が高く、品質が劣化してしまう恐れがあったんです」
この課題を解決するために、同社はフィルム型BIBを採用することに。そして、フィルム型BIBに対応した充填機と外装の段ボールを自動で形成する